日立市のコミュニティ情報紙

こみこみ

No.7

発行日／2001.11.5
発　行／日立市コミュニティ推進協議会
編　集／コミュニティ情報紙編集委員会
日立市役所市民活動課内　☎0294-22-3111
〒317-8601　日立市助川町1-1-1

みんなでつくる
自分たちの防災組織

日立市コミュニティ推進協議会の事業計画の１つに「自主防災」を掲げています。「災害に強いまちづくりを目指して」をテーマに、自主防災訓練や実際に役立つ組織の育成など、小学校区をエリアとした２２コミュニティで取り組むことになりました。

22学区の現状

コミュニティ推進者のつどい「防災部門」の実行委員会では「つどい」で取り上げるテーマ設定に先駆け、２２コミュニティに、防災の現状アンケート調査を実施しました。

アンケートから

●連絡網での伝達が３０分以内にできるが１学区、１時間以内にできるが６学区、連絡網が確立し、訓練していることがうかがえます。

●町内から本部へ連絡が確立しているが１学区、可能が５学区あります。双方向性のある連絡網の整備が必要であると言えるでしょう。

●避難場所への誘導を毎年実施しているが６学区。障害者への対処訓練を毎年実施しているのは２学区。

●重点対策の１位は一般火災と答えたのは１１学区で圧倒的に多く、２位は地震で４学区。防災訓練も一般火災への対応が多く見られます。

防災訓練

情報の伝達
保育園・幼稚園・小学校にも
塙山学区

塙山学区の今年の防災訓練は、連絡網を使った情報伝達に重点をおいて実施しました。

分団毎に分団長からコミュニティ推進員への連絡網で、全住民に知らせる訓練は多くの課題が見えてきました。

また、小学校、幼稚園、保育園も、はじめて緊急連絡網に組み入れ、避難訓練も実施、児童を確実に保護者に引き渡す訓練も行いました。緊急時の家庭や地域との連絡、地域からの応援体制の整備などを検討する機会となりました。

通学路別に整列

この日、各戸配備の戸別受信機を利用して、塙山学区の防災訓練の広報ができたことも大きな成果といえます。

協働でつくる安全なまち

世論調査によると「５２％の家庭では非常食などの準備がなく、防災意識の低さが現れている」と、報道されており、“災害への備えは行政頼み”という実態です。大災害直後は誰もが防災を考えますが、そのうち風化します。

防災訓練は地域の助け合いと防災の意識が必ず身に付くものです。防災に完全はありません。皆さんと共に災害に強いまちづくりを目指します。

交通防災課長　本柳昭男

多彩な体験プログラム
久慈学区

住民の防災意識の高揚を図る目的で自主防災訓練を年に１回開催してきました。これまでには、消防指導車に乗車してテレビモニターへ向かっての放水消火訓練や119番通報訓練、救急隊員による応急処置の方法など住民が体験できるコーナーを多く設けました。

昨年の防災訓練の風景

また、車に閉じ込められた人を火花が飛び散らない特殊工具を使用して乗用車を解体して救助する訓練や、インパルス銃発射（空気と一緒に水を霧状にして一瞬で火を消す）訓練、救命もやい銃の発射訓練（海面に投げ出された人の近くに浮輪を落下させ救出する水難救助訓練）、サイクル機構の原子力モニター車による体内放射線の計測や原子力資機材の展示なども行ってきました。これらは久慈学区ならではの試みです。

地域で育てる元気っ子　会瀬学区

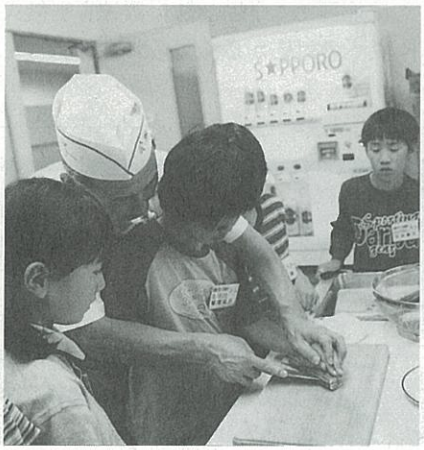
会瀬学区コミュニティでは子どもたちが、会瀬青少年の家で宿泊しながら体験する「会瀬元気っ子体験村」を実施しました。

９月２８日(金)から７泊８日。会瀬小学校の４年から６年生の希望者３３名が参加､子どもたちは親元を離れて、慣れない共同生活をしながら通学をしました。

この事業のプログラムは地域の資源や人材をフルに生かして、海での砂遊び、漁業の見学、会瀬ささら体験、会瀬再発見ウォーク、ホテルでのテーブルマナー学習、銭湯体験などなど多彩です。

６時起床や朝食を応援する人、餅つきやうどんづくりを教える人、材料を提供する人など、地域のたくさんの人たちが様々なかたちでこの事業に関わりました。

「元気っ子体験村の事業が実現できたのは、コミュニティ役員、子ども会、スポーツ少年団、青年団、漁業組合など諸団体が、日常的に連携して活動してきた成果です。地域の大人がリーダー役を引き受け、いろいろな体験をさせること、それは地域の教育力を高める機会でもあるのです」と、皆川村長は語りました。



おっかなびっくり魚をおろす

コミュニティあれこれ

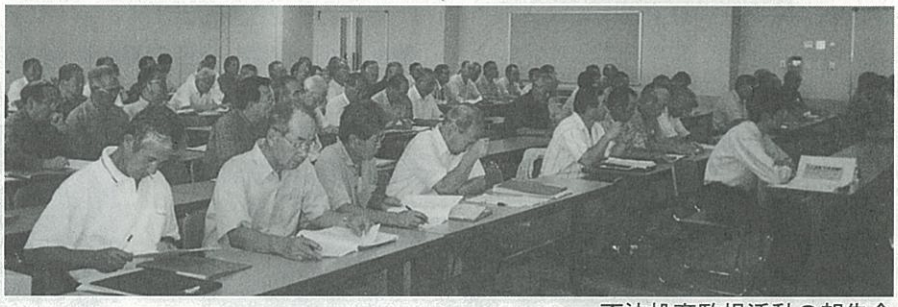
「コミュニティとは」

「住民が生活向上という共通の目的を持ち、関心のある人は自由に参加できて、その人たちには強い信頼がある」

そのような集団や活動が身近にあって、「住民が自ら、しかも責任感を持って活動に参加し、活動を通して人々の連帯感が生まれ、みんなが生きがいを感じることができる」そんな条件がそろっている「地域社会」を「コミュニティ」といいます。

不法投棄に地域の目

今年４月から家電リサイクル法により、冷蔵庫、テレビ、エアコン、洗濯機の４品目のリサイクルが義務付けられ有料化されました。日立市は不法投棄を防ぐため、２２のコミュニティから４名ずつの監視員を市長が委嘱、日夜パトロールを続けています。今年度、処理予算に約570万円が計上されています。


不法投棄監視活動の報告会

家電品不法投棄70件

８月３１日（金）には、監視活動報告会が行われました。日立警察署の大浦隆夫生活安全課長は「監視員の方には、市民のモラル向上に向けて努力して欲しい」と挨拶されました。また、清掃センターの担当者からは現状（表１、表２）が報告され、本来の目的である家電４品目については、７０件の不法投棄があったと報告されました。

表1【家電4品目排出状況】4月～7月

件数	内訳	
70件	山林など 27件	リサイクル券を貼らない不法排出　43件

表2【監視員からの通報】5月～7月

件数	内訳	
87件	山林など　51件（家電4品目21件）	集積所不法排出36件

公共の場を重点に

今後の監視活動については、ごみ集積所に収集日以外に捨てられ危険を伴う場合と、集積所以外の場所で、特に学区内の公道、公共用地、海岸、山林、河川などに捨てられた場合に通報することが確認されました。また、民有地は所有者管理なので、市は回収しないことも確認しました。

ごみ減量は市民の義務

私たちは、税金を払っているからごみは市が処理するのは当たり前だと思っていませんか。少しでも税金の無駄遣いをなくして、子育てや福祉など、本当に市民の生活に必要なところに税金を使ってもらえるように、モラルを守って少しでもごみを減らすように心がけることが、市民としての義務ではないでしょうか。

地域の中で活躍しているさまざまなグループを紹介します。親子の仲間づくりや、働く子育て中の人たちを支える二つのクラブを取材しました。

遊びの中からスキンシップ　ピノキオくらぶ 諏訪町

平成８年に産声を上げたピノキオくらぶは今年で５年目を迎えました。

会長の塩沢芳美さんは、諏訪町に新居を構え長女を出産。ところが、「周囲には、子育てで一番大切な子ども同士のふれあいの場がない。私自身気軽に話し合える友だちも欲しかったのです」と、ピノキオ誕生のきっかけを懐かしそうに話されました。

友達に悩みを持ちかけたところ、あっという間に話がまとまり、同じ悩みを抱えていたお母さんたち１０名が集まりスタートしました。

第１、３火曜日、諏訪コミュニティセンターで、１歳半から４歳ぐらいまでの子どもを抱えたお母さんたちと一緒になって遊び、語り合い、楽しく過ごしています。

班を編成し当番制で役割を分担、メンバーみんなが主役のユニークな自主運営。年間スケジュールを立て、紙芝居や工作、室内ゲームのほか、夏は川遊び、秋は運動会、クリスマス会など季節に合わせた行事が盛り込まれていて、あっという間に一年間が過ぎてしまうといいます。

「今では、子どもたちが楽しみにしているので、自分の都合で休めないし、何よりもお母さん方と友だちになりたい！との強い思いが、５年間楽しく続けてこられたのでしょう。これからは、読み聞かせなどを織り込み、少しずつ年齢層を上げた内容で子どもたちとふれあっていきたい」と、将来に夢を馳せる塩沢さんが印象的でした。

親子で遊ぶが基本

問い合わせ
塩沢　TEL 34-0154

肝っ玉先生の暖かさ　海っ子学童クラブ 水木町

水木町のでんがくばら公園近くにある集会所で元気な子どもたちの声が聞こえています。

「あいにくの天気で公園での遊びができなくて室内で飛びまわっているのです」と、亀山みき子さん。５人のかぎっ子の世話を始めて８年目。現在は４つの小学校の子ども２０名を保護者の迎えまで世話をする学童クラブです。

宿題する子、公園で思いっきり遊ぶ子などみんなが自由に楽しめる場です。「自由にのびのびと遊び、その中から協調性や思いやりの気持ちをもってくれれば…」と思っている亀山さん。

やさしく時にはきびしく

長期休みには海水浴、キャンプ、バーベキュー。先生や保護者の車で一泊旅行などいろいろな所へ出かけます。

子どもたちの表情が暗かったり、寂しそうな顔を見るときは心が痛みますが、優しく、時にはきびしく元気づけています。保護者の迎えが遅くなる時は、自宅に預かり一緒に食事をする、“肝っ玉先生”の暖かい人柄が子どもたちの大きな心のよりどころです。

「子どもたちを見るのが楽しみ、あと数年は続けたい。子どもとお年寄りが一緒になって遊び、楽しめる場を作れれば…でも、個人の力では無理かな」と肝っ玉先生は笑いながら話してくれました。

問い合わせ　亀山　TEL 53-4526

日立のよいところ　河原子街道のいちょう並木

河原子から大久保に続く河原子街道のいちょうが澄みきった晩秋の空に鮮やかに映え、落ち葉もまた風情があります。

日立市のコミュニティ情報紙

こみこみ

No.7

コミュニティ推進協議会　単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が２２あります。それぞれの地域の特色を生かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は宮田学区市民運動をすすめる会を紹介します。

住民とのきずな太く

宮田学区市民運動をすすめる会

学区の特長

宮田学区は海と山と市街地が一望できるかみね公園から、太平洋側に広がった地域です。公園のさくらも見事で、国指定重要有形・無形民俗文化財「日立風流物」の山車４台のうち３台が学区内の町内で保存されています。

会の構成

学区内を９支部に分けて支部長を置き、会を運営しています。

総務広報・生活環境・青少年育成・文化体育・防災部の５専門部があり、各支部からの部員で構成しています。

役員会、運営委員会、常任委員会があり、これらに諸団体（社協、ＰＴＡ、学子連など）が加わり活動しています。

親子でバケツリレー

〔小冊子発行〕

このほど、宮田学区コミュニティマップ作成時に収集した資料を基に、住みよいまちづくりに役立てるための小冊子「みやたの歴史散歩」を発刊し、大変好評を得ています。

活動方針

「明るく・楽しく・住んでよかったこのまち」の活動方針を地域に浸透し続けていき、活性化していくよう努力しています。

特徴的な行事

『春の文化祭』　宮田ふれあいプラザのオープニングイベントとして５月１３日から８日間開催されました。子どもからお年寄りまでの作品１７０点が展示されました。出品した８６歳の方は「久しぶりの勉強で若やいだ気分になった」と感動していました。

各部が模擬店を出店、野点も行われ普段できない体験や交流ができました。

『ふれあいまつり』　今年で１２回目が開催されました。各支部が模擬店を出店、特に支部対抗の競技は１か月も前から内緒で練習し本番に備えます。毎年２０００人以上の人が集まり賑わいます。

『防災訓練』　昨年度から小学校児童も一緒にいろいろな防災訓練をしています。避難誘導をしながら通学路の安全を保護者と一緒に確認して、意識の高揚を図っています。

次の世代へ

学区内には伝統芸能が多く保存されています。特に日立風流物や東町ささらなどは、次の世代へ引き継がなければならないものです。保存のために学区内の会員が子どもたちに指導しています。また風流物子ども鳴物は様々なイベントへの出演依頼があります。

今後の展望

「長年の課題であった活動拠点である‘ふれあいプラザ’が完成し大きな弾みになります。学区、支部、宮田地区社会福祉協議会との連携を緊密にし、お年寄りも生き生きと生活できるよう、拠点の実効率を上げていきます。専門部の活性化を図り、各種団体と積極的な交流をしながら絆を強め、安心して夢と希望がもてる地域づくりに努めます」と、大内会長は語っています。

華をそえる子ども鳴物

会長　大内　十寸
問い合わせ　宮田ふれあいプラザ
TEL 27-6835
世帯数　3,770
人口　9,125
（平成13年6月1日現在）

「こみこみ」が全戸配布になります

コミュニティ情報紙「こみこみ」７号から全戸配布になります。各学区の事業や、グループ、心が和む風景など、日立市内が浮かび上がるような情報をお届けします。

ご意見や情報をお寄せください。